

活動名	ごみ箱表示改善プロジェクト!～きちんと分別・きれいな大学～ New Stickers for Proper Waste Sorting
代表者氏名・所属	藤井真穂子：文教育学部人文科学科 4 年
構成員氏名・所属	安藤美月：芸術・表現行動学科 4 年 藤井裕子：人間社会科学科 3 年 小山香梨：生物学科 4 年 赤岡茜：人間社会科学科 2 年 秋山美由紀：人文科学科 4 年

【概要】

本プロジェクトは、構内で正しくごみ分別が行われるようにすることを目的としたものである。プロジェクトでは、大学構内のごみ箱に貼る新しい表示の作成から、貼り付けまでを実施した。紙資源のリサイクル促進のために、リサイクルボックスの購入・設置も行った。

【詳細内容】

1. プロジェクトの背景

平成 25 年度後期開講「情報コミュニケーションテクノロジーと創発性」の授業内で、課題の発見から企画立案までのプロセスを学ぶ際に、テーマとして扱ったのが「ごみ箱表示改善」であった。

授業では、分別意識の調査として学生・教員 59 名にアンケートを取った。結果、約 9 割が「分別している」と回答した。しかし、ガイドラインを見たことがないと答えた人も約 9 割いた。また、紙資源のためのリサイクルボックスの認知度は 21%と低く、可燃として捨てられているのが現状であった。また、各自治体の分別ガイドラインについても調査したところ、分別基準が千差万別であるばかりか、文京区の分別基準と大学のそれが異なっていることも判明した。

つまり、本学では、各々が自己の判断（自分の暮らす地域の分別基準）に従って分別しているつもりになっているが、それは大学の分別基準とは違うため、間違いが起こっている、ということが明らかとなった。この状況では、いくら分別を呼び掛けても、間違った分別が行われるのは避けがたいことであると感じ、分別表示の改善が必要であるという結論に達した。

授業の目的は企画作成までだったため、授業終了後有志で実行に移そうと考えていた折に、担当教員だった石田千晃先生から学生自主企画プロジェクトについて伺い、機会を得て、本プロジェクトとして実行に移すこととなった。

2. 本学の分別状況について

平成 26 年 4 月時点で、キャンパス内のおよそ 86 か所に可燃・不燃・カンビン・ペットボトルのごみ箱が、文教育学部 1 号館、理学部 1・2・3 号館等に 43 台のリサイクルボックスが設置されていた。ごみは、学生および教員が捨てたものを清掃員が収集し、回収業者が決められた曜日に引き取っている。本学の分別基準は、入学時に配布されるキャンパスガイドに記載されており、一部のごみ箱付近では分別基準が貼り出されているところもある。ガイドラインは詳細に分けられているが、実際のごみ箱表示は「燃える」「燃えない」のみの表記で不十分である。正しく分別されていないと業者に回収されないため、清掃員が収集後に手作業で仕分けている。清掃員によると、仕分け作業に時間を取られてしまうと、講義室の掃除ができなくなってしまうとのことであった。

3. 新しい表示の作成

3. 1. リサーチ

本学の分別状況を知るために、改めて清掃員および施設課環境安全担当に取材を行った。清掃員に、分別がどの程度正しく行われているのか、どのような問題があるのかを尋ねたところ、可燃ごみにプラスチック類が多く捨てられていること、陶器やガラスなどのワレモノが不燃ごみに入っていて危険であること、リサイクルボックスがあまり活用されていないことなどが明らかとなった。施設課の環境安全担当の方には、お茶大のごみの排出量の過去数年分のデータをもらい、最終的に分別できなかったごみが「産業廃棄物」として引き取られており、コストがかかるため問題となっていることが判明した。分別をきちんと行うことで、「産業廃棄物」の量を減らし、ひいては経費の削減につながると考え、プロジェクトの必要性を改めて感じた。

3. 2. デザイン依頼・投票

新しい分別表示のデザインはメンバーの友人に依頼した。その際、2 パターン作成してもらい、学生及び教員による投票で決定することとした。投票は 2014. 7. 23～8. 4 の 13 日間行い、投票場所は、生協（マルシェボード・階段踊り場）、図書館（一階掲示板、二階掲示板）、学生会館（入口）の計 5 か所に設置した。投票方法は、用意した丸シールを、気に入った方に一人一枚貼ってもらうというものである。結果、A 案 73 票、B 案 16 票（計 89 票）で、A 案が採用された。

3. 3. 印刷・ラミネート加工

夏季休業期間を利用して、印刷とラミネート加工を行った。

実施中!
7月23日(水)～8月4日(月)

お茶大のごみ箱表示を変える投票

私たちは、「ごみ箱表示改善プロジェクト～きちんと分別・燃える・燃えないお茶大～」チームです。お茶大構内の「不明瞭・不正確・不統一」なごみ箱の分別表示を改善するべく、この春立ち上げました！
投票所は、生協（マルシェボード・階段踊り場）、図書館（一階、二階）、学生会館（入口付近）の5箇所を設置しています。お好きなデザインに一人一枚、シールを貼ってください。
皆さんの意見がお茶大のごみ箱表示を改善します！ご協力をお願いします。

A.

B.

※ペットボトル、カンビン、リサイクルボックス（紙ごみ用）の表示も新しくします。
投票は、ごみ箱本体の上部に貼る予定です。
貼り直しイベントは10月開催予定です。（場所未定）
その際ボランティアを募集します。応募のご参加ください！

平成26年度学生自治会実行委員会
「ごみ箱表示改善プロジェクト～きちんと分別・燃える・燃えないお茶大～」
ご協力！ 3年 渡月知子 kunio.021@tezu.ac.jp

4. 理学部専用の分別表の作成

当初の計画には入っていなかったが、理学部に所属するメンバーの考案で、金属類やガラスなどの特殊なごみが出る理学部には、専用の分別表を作ることにした。はじめにキャンパスガイドを元にして素案を作り、それだけでは不十分だと感じたため、理学部の学生 30 名にアンケートを取り、普段授業や研究室からよく出るごみで、捨て方が分からないものを挙げてもらった。必要な項目が決まったら分別表を作成し、清掃員および施設課環境安全担当のアドバイス・許可を得て、最終的な分別表を作成した。分別表は 30 部印刷し、理学部 1・2・3 号館および共通講義棟 3 号館のごみ箱付近の壁に、他の表示を貼り付けるのと同じ日に掲示した。



5. 貼り付け作業

5. 1. ボランティア募集

表示の貼り付け作業のためには、ボランティアを募ることとした。これは、貼り換えに人手が必要であることのほかに、学生の間で、表示改善に対する認知度を高めるといった目的があった。募集方法は、ポスター、電子掲示板、大学公式ツイッター、リーダーシップ養成教育研究センターのイベント告知のページ、および口コミである。



5. 2. 貼り付けの実行

貼り付け作業は、2014. 10. 17 に、6 名のボランティアとともにいった。

6. リサイクルボックスの購入・移動

リサイクルボックスは、新たに 5 台購入した。それだけではなく、文教育学部 1 号館などから移動し、教室のあるすべての棟に 1 台以上設置した。特に、授業が多く行われる共通講義棟 1・2・3 号館にはもともと 1 台もなかったが、計 6 台にした。図書館のラーニングcommonsにも 1 台、学生会館にも 1 台新設した。



7. プロジェクトの評価

7. 1. 事後アンケート

アンケートは2014. 11. 21～29の9日間行い、68名から回答が得られた。新しい表示に気付いた人は61.8%で、そのうち、以前より分別意識が「向上した」と答えた人は76.2%、「以前より分別しやすくなった」と答えた人は54.8%（それ以外は「変わらない」）であった。「リサイクルボックスを知っているか」と尋ねた所、企画実施前(2013. 12)は21%であったのに対し、企画実施後は39.7%となった。

7. 2. 清掃員へのインタビュー

清掃員の実感としては、一部で改善が見られるものの、劇的な変化はないとのことであった。文教育学部1号館からリサイクルボックスを移動したために、古紙が燃えるごみに入ってしまうことが多くなった気がするという指摘があったが、新設した共通講義棟のリサイクルボックスはしっかり活用されているとのことであった。

8. 課題

もともと分別意識のある人にとっては表示は効果的だが、意識がなかった人に働きかけるのは難しかったのではないかと考えられる。ただし、改善前・後の比較に、意識調査しか行っていないので、感覚的な違いしか分からないのが実情である。ごみの量の変化、清掃員が再分別にかかる時間の変化など、数値で表す方法を考えるべきだったかもしれない。また、ボランティアやアンケート協力者を募る際に、拡散方法に工夫の余地があったと思われる。トイレ内のごみ箱、粗大ごみ置き場については、清掃員から指摘があったものの、表示改善には至らなかった。

そのほか、成果発表会では、留学生のために、英語での表記があればなお良かったのではないかという指摘が寄せられた。

